

たぬきの糸車 きしなみ 作

### 第一次指導（1時間扱い）

目標

- ・たぬきの糸車の粗筋が分かり、たぬきとおかみさんとの心の交流が概観できる。

〔区画〕 絵に合わせて 六区画（絵にも番号）

- 1 むかし、
- 2 ふと気が
- 3 あるばん、
- 4 はるに
- 5 「はあて、
- 6 たぬきは、

#### 一よむ（音読 六名）

- 席順に、大きな声でゆつくりと読む。
- 読後、読み手と聞き手を評価する。

#### 二とく（読後感の整理の話し合い）

#### ○ 題目（題を手がかりに話し合う）

- ・ 題を板書し、糸車の絵を見る。（絵2）
- ・ 糸車の補説をしながら、回しているのは誰か。どのように、また、いつのことか。
- ・ 糸車と一緒に回るのは、誰のどこか。
- ・ 毎晩、勉強したたぬきが、しっかりと勉強したことが分かる絵は。（絵5）
- ・ 右手で何を、左手で何をしているか。
- ・ その仕草は、誰のようか。
- ・ おおかみさんの糸車がたぬきの糸車になったという話。

#### ◎ ひびき（話から響いてくるものに触れる）

- ・ おかみさんは、どんな先生でしたか。

#### ○ 手引き（視写の指示）

- ・ たぬきがどんなことをしているか、絵を

見ながら文章の中の言葉を書き出す。

#### 三よむ（手引きに従い黙読）

#### 四かく（視写 教師も板書）

- 1 にはたぬきの絵がないが、していることは、
- 2で、たぬきのしていることは。
- 3は、たぬきがどうなった絵なの。
- 4には、たぬきのことを書いてないで○。
- 5、6は、自分で探して書く。

〔板書事項〕

- 5よむ（全員で指読後、指音読一〜二回）
- 6とく（視写部分について話し合う）

#### ○ 事実（書かれた言葉の関連付け）・区分

- ・ おかみさんがたぬきのことを笑って見ているのは。（まね おどり）
- ・ びっくりして見ているのは。（わな 仕掛けたのは きこり 手つき 音）
- ・ 4もびっくりしている。何にびっくり。（糸のたば 糸車）
- ・ どんなたぬきだから、びっくりしたり笑ったりできるのかな。（いたずら）

- ・ 〔区分〕 たぬきの糸車になったのは、何番と何番か。季節は。（4と5 冬）

#### ◎ 山（詳しく読む部分を確認する）

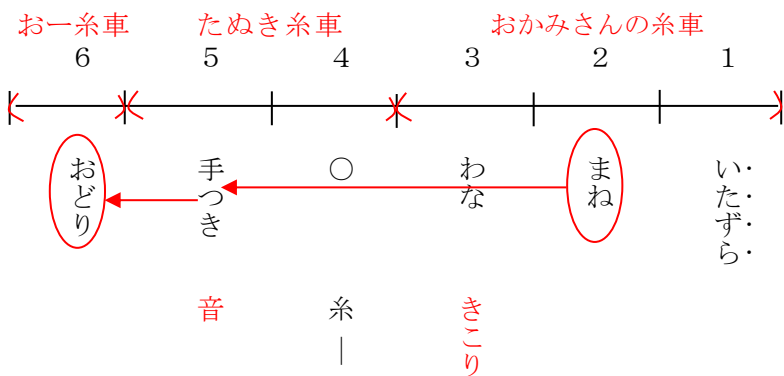
- ・ 1〜3番は誰の糸車（おおかみさんの糸車）
- ・ 6番は誰の糸車に。（おおかみさんの糸車）
- ・ たぬきが糸車を回せるようになったものが書いているのは何番か。（2）
- ・ たぬきの糸車になっていることが分かる

ところは。（5）

- ・ 糸車を回したたぬきの気持ち分かるところは（6）三か所を詳しく勉強します。

#### ○ 余韻（面白いたぬきだ、見てみたいなあ）

おかみさん  
たぬきの糸車



第二次指導第一時

〔板書事項〕

- 一 よむ 六名
- 二 とく

○ おさらい

- ・ たぬきの手つきは誰似。(おかみさん)
- ・ 「手つき」は何番に書いた。(5 手―)
- ・ 何番で勉強したの。(2 ま―)
- ・ 実際に回したのは何番。(4 ふゆ)
- ・ あまりに上手になったので、たぬきも大喜びです。どんなところですか。(6 お―)
- ・ たぬき汁になるのを助けてくれたのは。(おかみさん 3 わ―)
- ・ どんなたぬきだったから畏にかかったの。(1 い―)

◎ 承接(本時へつなぐ足場作り)

- ・ おかみさんが、畏にかかったたぬきを助けました。どうして、助けたのですか。(いたずらもんだが、かわいいな)
- ・ たぬきのどこがかわいいのですか。(くりくりした目玉 たぬきのかげ)
- ・ (くりくりした目玉 たぬきのかげ)
- ・ 糸車が速く回ると、目玉も、かげも。(速く回り 影も速く動く)
- ・ ゆっくり回ると。(ゆっくりになる)
- ・ おかみさんは、それを見てどうした。

○ 手引き

- ・ おかみさんは吹き出しそうになるが、黙って糸車を回した。その後の所を書きます。

- 三 よむ
- 四 かく

それからというもの、

たぬきは、まいばん  
まいばんやってきて、  
糸車をまわすまねを  
くりかえしました。

「いたずらもんだが、  
かわいいな。」

- 五 よむ (指黙読一回 指音読二回)
- 六 とく

○ 語義・区分

- ・ それから まね くりかえす が
- ・ 二区分(地の文と「誰と誰」を二区分)

◎ 心(文章の核心を味わう)

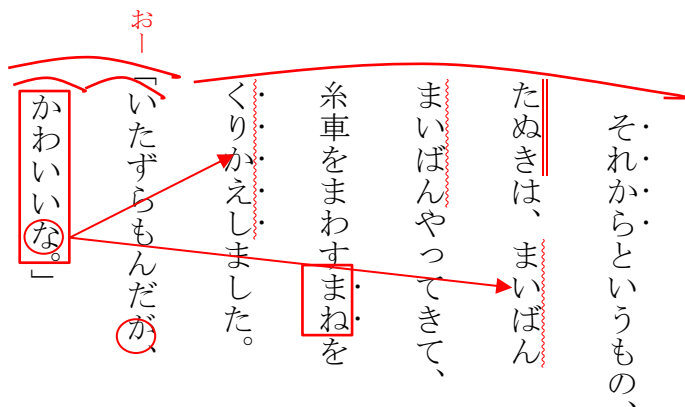
- ・ おかみさんは、たぬきのことのどっちが心に残りましたか。(かわいいの方)
- ・ その気持ちが強くて出ている字は。(な)
- ・ 「かわいいな」と分かるたぬきの様子は。(まいばんまいばん まねをくりかえす)
- ・ (キー|| ゆっくり|| 大輪
- ・ クルクル|| 速く|| 小輪|| 糸を紡ぐ輪
- ・ 欠席もなく、先生のやる通りに
- ・ おかみさんの先生も……という話

○ 余韻

- ・ たぬきの目玉の動き、影絵のようで面白い。
- 七 よむ (指音読一回 消しながら暗唱…)

\* 「な」の扱いは、入れない場合と入れる場合の違いを大げさにして見せる。想像の世界に遊ばせるように配慮する。

6	5	4	3	2	1
お	手	○	わ	ま	い
お	手	○	わ	ま	い
		ふ			
				月	目
				か	



第二次指導第二時

一 よむ 六名

二 とく

○ おさむい

・ おかみさんは、たぬきのが気に入ってしまいました。その前は、どう思っていたのか。(いたずらもん)

・ どころが、かわいかったの。(目玉 まね)

・ たぬきのお勉強は、どのくらい続いたの。

(冬になり、村に下りるまで)

◎ 承接(本時へつなぐ足場作り)

・ でも、途中で勉強できなくなったときがあります。どうしてしまったの。(わな)

・ そのときに、最初に気づいたのがきこりだったら、たぬきはどうなっていたの。

(たぬき汁)

・ おかみさんに助けられたたぬきが、冬の間にしたことは。(糸車を回すこと)

・ 春になって、戸を開けたおかみさんの目はどうなったか。(略画 驚きで真ん丸)

口は。(ぼかんとなる)何を見たからか。(板の間の糸の束と糸のかかった糸車)

・ 不思議に思ったおかみさんがさらにびっくりしたのは何。(糸車の回る音)

○ 手引き

土間でおかみさんが糸車の音と振り返って見たものの所を書きます。(児童は音から)

三 よむ  
四 かく

土間でごはんをたき  
はじめました。すると、

キーカラカラ

キーカラカラ

キークルクル

キークルクル

と、糸車のまわる音が、  
きこえてきました。

びっくりしてふり

むくと、いたどの

かげから、ちやいろ

のしっぽがちらり

と見えました。

五 よむ(指黙読一回 指音読二回)

とく

○ 語義・区分

すると きこえて びっくり ふりむく

いたど ちらり

・ 二区分(顔の向き)後、二区分

◎ 心(文章の核心を味わう)

・ おかみさんの顔が変わったのは何番。

(③びっくり)

・ でも、すぐに安心。(しっぽ ちらり)

・ 誰だと。(たぬき)

・ 糸車の音に驚いたのは誰と同じだから。

○ 余韻  
(おかみさんの回す糸車の音と同じ)

七 よむ

おかみさんの顔が見えるようで楽しいね。

○ 指音読一回 消しながら暗唱…

〈板書事項〉

○ 目ーまー (おかみさんの顔の略画  
× いー 目 口 略)

いたの間 糸のたば ←

① 土間でごはんをたき

はじめました。すると、

キーカラカラ

キーカラカラ

キークルクル

キークルクル

と、糸車のまわる音が、

きこえてきました。

③ びっくりしてふり

むくと、いたどの

④ かげから、ちやいろ

のしっぽがちらり

と見えました。

第二次指導第三時

一 よむ 六名

二 とく

○ おさしい

- ・ 山奥の小屋に戻ったおかみさんは、びつくりの連続でしたが、何を見て安心したの。
- ・ 尻尾を見てあのためきだと分かった。道理で、糸車の音が誰と似ていると。

◎ 承接（本時へつなぐ足場作り）

- ・ それで、おかみさんは何をしたのかな。
- ・ そつと覗くと、ためきは何をしていた。（上手な手つき 音が同じなわけだ）
- ・ 糸車の音が止まると、何をしたの。（おかみさんがした通りに……）

○ 手引き

- ・ おかみさんも見とれていましたが、それに気づいたためきのところを書きます。

三 よむ

四 かく

ためきは、ふいに、おかみさんがのぞいているのに気がつきました。  
 ためきは、ぴよこんとそとにとび下りました。  
 そして、うれしくて、たまらないうように、ぴよんぴよこおどりながらかえっていきましましたとき。

五 よむ（指黙読一回 指音読二回）

六 とく

○ 語義・区分

- ・ ふいに ぴよこん（ぴよんぴよこ）
- ・ たまらない ながら とき

・ 二区分（板の間と外） 後と二区分

◎ 心（文章の核心を味わう）

- ・ 糸車のお勉強が気に入っていたのか分かるの言葉を①〜③それぞれ探して。

① ふいに＝夢中になっていたのね。

② ぴよこん＝気持ちよい跳び方だね。

③ おどり＝心が体全体に出ているね。

踊り方は。（ぴよんぴよこ＝スキップ）

- ・ 冬の間、楽しめて満足したという且雨季の話。喜んだのはためきだけかな。

（おかみさん きこり みなさん）

○ 余韻

動物の出てくる昔話を読んでみたいな。

七 よむ（指音読一回 消しながら暗唱……）

〈板書事項〉

略図を描く

（板戸の図）

土間 土間  
 板の間 尻尾の図  
 束の間

